

2020年2月17日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 2020年の展望

中期経営計画では「テレビを超える」というテーマを掲げている。全社員がビジネスプロデューサーであるという意識を持ち、顧客ニーズに応えることで収益を得る形で、全社一丸となり中期経営計画の目標を達成したい。

2. 視聴率動向と編成戦略

今週で2週連続の世帯視聴率三冠王、好調に推移している。

水曜ドラマ「知らないでいいコト」は直近回のHuluでの感触も良く、残り4話を盛り上げていきたい。土曜ドラマ「トップナイフー天才脳外科医の条件ー」も、最終回で最高視聴率を出せるよう後押ししたい。読売テレビ制作の日曜ドラマ「シロでもクロでもない世界で、パンダは笑う。」も最終回に向けて、SNSなどで支援していきたい。

4月改編については、企画の多様性とターゲット戦略を重視する予定である。

2. 営業状況

・放送収入

今年度は業界全体でスポット収入が落ち込んでいるが、当社の1月は前年同月を超え、1月単月における民放の歴代1位の売り上げを達成した。シェアにおいても31.5%となり、在京キー局で歴代トップのシェアとなった。苦しい中で年末特番と連携することで、スポット出稿が推移した結果だと考えられる。

・放送外収入

幹事作映画の「A.I.崩壊」は「22年目の告白ー私が殺人犯ですー」の制作チームが担当し、初週土日興行収入第一位を獲得した。しかし、新型コロナウイルスの影響で多少出足がよくない状況になっている。イベントも同様であり、運営スタッフのマスクの着用や消毒液の設置など緊急時のマニュアルを徹底し、万全な対策をとっている。

3. その他

・常時同時配信について

現段階で決まっていることはない。収益性、権利者との許諾、生活者のニーズ、さらにネットワーク各局のコンディションなどを考慮して、対応を慎重に検討していく。

・「世界の果てまでイッテQ！」の祭り企画について

ロケは行っている。準備が整い次第、3月中には放送すると聞いている。

・オリンピック放送について

民放の一局がその日一日をメインで放送し、重なる競技については、それぞれ別の局が補完をする。NHKとも協力し、国民のニーズに最大限応えられる放送をしたい。

・民放共同企画「一緒にやろう」プロジェクトについて

民放が手を取り合い、社会貢献に役立つ取り組みをする「一緒にやろう」という共同企画を立ち上げた。応援ソング「SMILE～晴れ渡る空のように～」を桑田佳祐さんに歌って頂いている。

・東日本大震災から9年

「news every.」では3月11日に全国ネットの時間帯を拡大して、福島県双葉町から藤井貴彦・陣内貴美子、両キャスターが中継する。「news zero」では、3月2日から関連する企画を放送する。「NNNドキュメント」は3月8日にテレビ岩手・宮城テレビ・福島中央テレビの合作で「約束」というテーマのドキュメンタリーを放送する。それぞれの報道番組が少しずつ角度をかえ、中継の場所も変え、独自の報道をする。

・槇原敬之容疑者の逮捕の影響

「ヒルナンデス！」のテーマ曲は、今後使用する予定はない。著名人の事件報道は単なるゴシップに終わらせらず、社会的影響を考慮する必要がある。今回は、違法薬物のリスクや依存から立ち直る方法も含めて伝えるのがメディアの責任だと考えている。

(了)

小杉 善信 代表取締役 社長執行役員

廣瀬 健一 取締役執行役員

福田 博之 取締役執行役員